

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月2日

【評価実施概要】

事業所番号	4070901832		
法人名	株式会社 ケアリング		
事業所名	グループホーム 東光寺		
所在地 (電話番号)	福岡市博多区半道橋1丁目18番35-1号 (電話) 092-433-1777		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年4月9日	評価確定日	平成20年6月6日

【情報提供票より】(平成20年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造	
	2 階建ての	2 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000~60,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(期間:3年)
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	600 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 77 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	そえじま内科クリニック、中村遊行クリニック、荻原歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成17年10月に開設されたグループホーム東光寺は、木造2階建ての2階にあり、1階はデイサービスとなっている。ホームの敷地は広く、駐車場に加え、広い花壇や菜園が設けられ、ご利用者の憩いの場となっている。ご近所の方がお花を見学に来ち寄って頂け、交流の場ともなっている。“心豊かに過ごす優しさあふれる家、居場所があって出番があって、必要とされるわが家”をホームの理念に盛り込み、ご利用者1人ひとりにあった役割があって、このホームの特徴ともいえる、ご利用者全員で作る食事作りが日課となっているなど、皆さんが生き生きと毎日を過ごされている様子が印象的なホームである。地域の方々との交流も盛んで、ホーム内に留まらず、地域の老人会で行われているゲートボールやカラオケ大会等への参加も予定されているなど、地域交流に向け更なる取り組みが続けられている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員全員で改善計画書を作成し、①ヒヤリハット・事故報告書の統計②温湿度計の設置と細かな確認③市との連携④地域への情報発信⑤運営規程の見直し等の改善に取り組んだ。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、ミーティングの時間を使って、管理者が職員に説明し、意見を聞きながらその結果を1つにまとめた。自己評価・外部評価に対し、監査というイメージを持つ職員に、“ありのままを見て頂き、出来ていないことは、改善に取り組めばいいから”と説明したことで安心され、いつもやっていることを見て頂こうと言う思いにいられた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	町内会長・副会長・民生委員さんに、デイサービスの管理者と一緒に会議への出席をお願いに伺った。初めの会議は、町内会長宅や町内会館を利用して行われた。その後、見学も兼ねてホームで会議を開催してはどうかと参加者より意見を頂き、地域包括支援センターの職員も参加して、ホーム内で会議が開催された。出席者から実際にホームを見学することで思っていたのは違って、家庭的な雰囲気とのご意見も頂いた。急用でご家族の参加がキャンセルとなり、ご利用者も遠慮されるため、ご利用者・ご家族の会議への参加はまだ実現していない。自己評価・外部評価の結果報告と共に、出席者より、町内の行事・イベント等の情報を頂き、今後の活動につなげる予定にしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	日頃の暮らしぶりや健康状態について、ご家族の面会時にお伝えしたり、面会の少ないご家族には、請求書と共に、管理者が一筆添えて郵送している。半年に一度は、個別に食事・入浴・排泄・歩行状況・医療面・余暇活動等について記入した一覧表を作成して郵送されている。毎月発行の“東光寺家族だより”にご利用者の写真を沢山掲載している。ご家族から意見を頂き、起居動作がスムーズに出来るように、布団からベットに入れ替えが行われた。ビーズでの作品作りや絵を描くなど、ご利用者が以前行っていた趣味をまたさせてみたいと材料を持参されたときも、趣味を行う時間を設けたりと、ご家族の意見を運営に反映させるような取り組みが行われている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のお祭りにご利用者の作品を出展したり、主催者より出店を任されたことで、ご利用者と一緒に焼きそばを作って販売も行った。子供の廃品回収のお手伝いにも参加している。町内会に加い、地域の寄り合いや清掃活動にも参加している。ご近所の方々とは、日常的に挨拶を交わす関係ができており、ホームのお花を見に来ち寄られ、そこで立ち話したり、散歩されるご利用者に声をかけて下さる事もある。地域のお一人暮らしの自宅を訪問したり、地域の集いで認知症ケアの実践を伝え、在宅でケアされている方の相談も受け付けている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	10ヶ条からなるホームの運営方針には、“地域社会の一員として、役割を持った生きがいのある生活を送れるようにお手伝いします”が盛り込まれている。運営方針に加え、職員全員でもっとわかりやすい理念を、と考へ「心豊かに過ごすやさしさあふれる家、居場所があって出番があって、必要とされるわが家、私の家、私の仲間を招待できる場所、気くばりの声かけと笑顔の返事」をホームの理念として掲げた。さらに「相手の身になって思いやるケア」を今月の目標としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所の中と居間の見やすい高さにそれぞれ掲示している。会議や朝礼、日々の現場において事あるごとに職員全員で口に出して確認しあっている。新任職員にはオリエンテーションで伝え、日々のケアが理念とどう関係するのか、ご利用者のためにどう繋がって行くのか等、意味を理解し実践できるよう指導が行われている。毎日の生活の中で、ご利用者1人ひとりの出番があって、必要とされていることを実感して頂き、地域の方たちと顔馴染みの関係となるよう日々取り組みを続けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りにご利用者の作品を出展したり、主催者より出店を任せられたことで、ご利用者と一緒焼きそばを作って販売も行った。子供会の廃品回収のお手伝いに参加し、地域の寄り合いや清掃活動にも参加している。ご近所の方々とは、日常的に挨拶を交わす関係ができており、ホームのお花を見に立ち寄られ、そこで立ち話したり、散歩されるご利用者に声をかけて下さる事もある。地域のお一人暮らしの自宅を訪問したり、地域の集いで認知症ケアの実践を伝え、在宅でケアされている方の相談も受け付けている。	○	今年から地域の清掃活動にご利用者も参加する予定で、老人クラブでゲートボールや物作り教室が行われているため、ご利用者も参加させていただく予定がある。地域の方々との交流に向けた活動が更に増えていかれることを期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果に基づき改善策を検討し、全職員で「改善計画書」を作成し、すぐに改善に向け取り組みを行った。良い評価をされた部分は自信となり、現在も継続できている。今回の自己評価は、ミーティングの時間を使い、管理者が職員に説明し、意見を聞きその結果をまとめた。自己・外部評価に対し、監査というイメージを持つ職員に、“ありのままを見て頂き、出来ていないことは、改善に取り組めばいいから”と説明したことで安心され、いつもやっていることを見て頂こうと言う思いにこなされた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・副会長・民生委員さんに、会議への出席をお願いに伺った。初めての会議は、町内会長宅や町内会館を利用して行われた。その後、地域包括支援センターの職員も参加して、ホーム内で開催された。出席者から実際にホームを見学することで思っていたのは違って、家庭的な雰囲気とのご意見も頂けた。急用でご家族の参加がキャンセルとなり、ご利用者も遠慮されるためご利用者・ご家族の会議への参加はまだ実現していない。会議の回数も少なく、今後2ヶ月に1回開催したいと管理者は考えている。	○	ご利用者・ご家族に参加して頂き、実際にサービスを利用されているご利用者に意見を言っていただくことで、参加者に現状を更に理解して頂けると思われる。会議の出席者にお茶会や行事に参加して頂き、その流れで会議に参加して頂くとか、短時間出席して頂くなど、ご利用者に負担にならない参加の仕方を検討していられることを期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営者である専務が主に市役所を訪問し、情報交換されている。管理者が、運営推進会議でどのような事を議題にあげればいいのか、また、書類の書き方等分からないとき、電話で相談することはあるが、市との積極的な連携を図る取り組みまでは行われていない。	○	市の担当者に、電話での相談以外にも、事業者の考え方や活動内容等についての情報提供を継続的に行うことで、市の担当者と共にサービスの質の向上に向けた更なる取り組みが行われることを期待していきたい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用に向け、現在1名の方が申請中である。管理者・一部の職員は、制度に関する外部研修を受け他の職員に伝達研修を行った。ホームに制度説明用のパンフレットを備え付けているが、全利用者・ご家族への説明はまだ行われてはいない。職員全員が制度について充分理解出来ていない状態である。	○	成年後見制度を申請中のご利用者もおられることから、職員全員で制度についての勉強会等を開かれると共に、ご利用者・ご家族への説明を行い、より多くの方が制度に関する理解を深めていかれることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日頃の暮らしぶりや健康状態について、ご家族の面会時にお伝えしたり、面会の少ないご家族には、請求書と共に、管理者が一筆添えて郵送している。半年に一度は、個別に食事・入浴・排泄・歩行状況・医療面・余暇活動等について記入した一覧表を作成して郵送されている。毎月発行の“東光寺家族だより”にご利用者の写真を沢山掲載し、行事の様子や職員の異動等の報告も記載されている。金銭管理については、預かり金出納帳のコピーを送付するようにしている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり、ご家族がホームにお見えになったときに、直接お会いして、顔を見ながらご意見や要望・苦情等はないかお聞きしている。ご家族が意見を言いやすいような雰囲気作りに配慮している。ご家族から意見を頂き、起居動作がスムーズにできるよう布団からベットに入れ替えが行われた。ピースでの作品作りや絵を描くなど、ご利用者が以前行っていた趣味をまたさせてみたいと材料を持参されたときも、趣味を行う時間を設けたりと、ご家族の意見を運営に反映させるような取り組みが行われている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は専属とし、運営者と共に職員の離職を防ぐため、休みの希望にも極力応じている。管理者が職員の様子を見て、気になった時は声かけを行っている。年1回、職員にヒヤリングシートを渡し、悩みや相談を記入して頂き、支店長・管理者と共に、改善に向けた話し合いがされている。がんばっている職員に対し、会社側の評価も伝え、定期的昇給以外に給与のアップなどがなされている。出産等で職員の交代があった時は、ご利用者にも“おめでとうだから”と伝え、新任職員には、職員全員で実践指導を行い、ご利用者にダメージを与えないような配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようになっている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢・宗教・出自等を理由に、最初から採用対象から外すという事はしていない。採用にあたっては、経験は問わず、明るい方を採用している。漬物作りや野菜作りなど、職員の特技や趣味の能力が十分発揮できる場を提供し、生き生きと働けるような配慮もされている。また、気の合うご利用者の担当について頂き、相互の力を発揮できるよう配慮している。代表者が日頃から差別をしないということを言い続けておられ、しょうがいをお持ちの方の採用も行われている。職員の資格取得やボランティア活動について、勤務調整をしたり、受験費用を補助するなど積極的な支援も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	代表者は、日頃から認知症の方に対しても、病気がない方と同じように接し、声かけをされており、その様子を職員は見習うようにしている。管理者は会議や申し送り、日々の現場で、常にご利用者の人権を尊重することを話している。職員全員で考えた“相手の身になって思いやるケア”を今月の目標としてあげ、毎月振り返りを行っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の育成に積極的に取り組んでおられ、事業所単独で月1回内部研修が行われている。2ヶ月に1回は、職員の意見を聞いて、テーマを決め、法人全体で合同研修も行われている。認知症介護実践者研修や事業者協議会主催の外部研修会にも参加している。職員のレベルや経験年数に応じた教育計画が立てられ、研修を選択して受けて頂いたり、運営者や管理者、計画作成担当者が指導教育を行っている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が研修会で知り合った他のホームの方と情報交換を行い、ヒヤリハット報告書の活用の仕方など参考になる意見を頂いた。今後、事業所間で職員の相互交換による、業務体験が予定されている。グループホーム協議会への参加も予定されている。	○	同業者と交流する機会が更に増え、共にサービスの質を向上させていかれることを期待していきたい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者や計画作成担当者が、ご自宅や病院を訪問し、その後、ご本人とご家族にホームを見学して頂き、体験入居して頂いている。状況に合わせて、2日おきに体験入居と自宅での生活を繰り返し、徐々にホームでの生活に慣れていただけるような対応もされている。独居生活をされていたご本人に、病気に対する認識がなくサービス利用を望まれます。親戚や馴染みの方のご協力、ホームに行き来する回数を増やして頂き、安心できる場所と認識して頂き入居に至った方もおられた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者から料理の味付け・裁縫・漬物作り・野菜作り・花の手入れなど生活の知恵や工夫を教えて頂いている。職員が失敗すると、大きな心で励まして頂いている。ご家族の変化を共に喜んだり、悲しんだりする場面も見られる。長年生き抜いてこられた強さを感じ、職員は励みになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメント用紙と独自のアセスメント用紙を利用して、ご利用者・ご家族から、どのように暮らしていきたいか話を伺っている。意思疎通が困難な方にも、生活歴・生活習慣・趣味等を把握し、ご利用者の行動・表情から思いを汲み取るよう努力している。やむなく入居を選択された方も多く、お気持ちを察し、ご家族がして差し上げたかった事を実現できるよう支援している。「毎日、ドライブをしたい」というご利用者の希望を叶えるために、併設施設の送迎車を借りて、職員が時間を作って、毎日のドライブを楽しんで頂いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員と計画作成担当で介護計画の原案を作成し、ご利用者が得意とすることも計画に盛り込んでいる。職員間でのケアを統一するために、「ケア統一表」を作成している。ご利用者・ご家族の意向やアイデアを計画に反映するため、話しを伺うも、「おまかせします」と言われる方も多く、計画に充分反映できているとはいえない。計画を作成する過程において、医師やご利用者の知人等からも意見を頂いている。計画の課題・目標に「地域で暮らす」という視点が盛り込まれている方と盛り込まれていない方がいる。	○	ご利用者がより良く暮らしていくための介護計画について、ご利用者・ご家族とゆっくり話し合いが出来るような時間を予め設定されるなどの検討を期待したい。また、地域の方々との交流や地域行事への参加等、積極的な支援が行われていることから、介護計画に盛り込んでいかれることを期待していきたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回の職員ミーティングの時に、全ご利用者の状態に変化はないか検討が行われ、3ヶ月に1回はモニタリングを行い、ご利用者・ご家族の意見を伺い、計画の見直しがされている。見直しはされているが、長期目標・短期目標の設定が、一律で1年と6ヶ月になっている。	○	長期目標1年、短期目標6ヶ月と設定するのではなく、ご利用者の状況や目標の内容から、それぞれに見合った達成期間の設定を検討されることを期待していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族に代わって、職員が病院受診や行きつけのお店、美容院への送迎など行っている。体調が悪く入院されたご利用者が、病院の食事が冷たいから入らないと言われ、好物や温かい飲み物を差し入れ、慣れた職員が食事介助を行ったところ、食事も入るようになった。寝たきりに近い状態になられたご利用者に対しても、社内(本部)の看護師の応援とアドバイスのもと、適切な対応とリハビリにより、回復されるなど、柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診が受けられるということで、ほとんどのご利用者がご家族と相談して、事業所の協力医療機関での受診に変更されている。職員の人数が足りないときは、ご家族に通院介助をお願いするときもあるが、必ずご家族に日頃の状況を書いた手紙を渡し、医師に渡してもらっている。診察の結果も家族に聞き、把握するようにしている。	○	医療連携体制の導入を検討中であり、今後の更なる取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したときや終末期の対応について、医療処置が必要でない場合は、最後まで対応できると方針は決まっているが、ご利用者・ご家族の意向は把握している方と、していない方がいる。開設以来、見取りをした経験はまだない。	○	重度化や終末期に向けて、どこで、どのように過ごしたいかなど、全員の方の要望を伺い、早期からの話し合いと関係者全員で方針の統一をはかっておかれる事で、将来に対する安心にもつながると思われるため、検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者のプライバシーに配慮し、トイレ誘導も周囲の方に分からないよう声かけしたり、ご利用者不在時でも、必ず入室の許可を取って居室に入るようにしている。ミーティング時に、管理者より個人情報に関する話があり、個人情報を書かれたものの持ち帰りや、持ち出しは禁止、個人情報に触れる話しをしないなど、職員全員で気をつけている。稀にはあるが、排泄チェック表がカウンターの上で表向きに置いてあることがあり、徹底に向けた検討を予定している。	○	個人情報の取り扱いについて、勉強会を開催したり、職員同士で気付いた人が、その都度注意を促すなどの取り組みの検討を期待していきたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のペースを尊重し、日課にとらわれない生活を提供している。1人ひとりのペースを把握できたことで、食事も急かさずゆっくりと食べていただいている。希望に合わせてドライブに出かけたり、自由に横になって頂いたりしている。どのように過ごしたいか希望を表現していただけない方には、これまでの暮らしぶりをもとに興味ある事を提供したり、関心を持っていただけるよう、目の前でぬいえをしたり、絵を描いたり楽しい場を作って、自然と参加したくなるような配慮も行われている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ご利用者と共に買い物に行き、何が食べたいか希望を伺っている。食事作りから楽しみにされているご利用者が多く、全員で調理から片付けまでを行っている。たけのこ・つわ・ビースなど旬の食材や、菜園で採れた春菊・白菜・キャベツ・レタスなど採りいれて調理している。また、がめ煮・お盆の饅頭など郷土食もメニューに入れたり、和風レストランやお寿司の出前を取るなどされているが、もっと手の込んだ料理に挑戦したいと考えている。	○	メニューがマンネリ化していると感じており、料理の本を見るなどして、ご利用者と共に、新しいメニューや手の込んだ料理に挑戦したいと考えられており、更なる取り組みに期待していきたい。
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は11時から18時で、毎日の利用も可能である。入浴の順番、湯温等個別の対応も行われている。入浴を楽しんでいただけるよう、季節に合わせて、菖蒲湯やゆず湯も行われている。在宅で5年間入浴されていなかったご利用者が入居され、清拭や足浴を行い、徐々に職員との信頼関係ができ、羞恥心に配慮して、服を脱がすのではなく、ご自分で脱いでもらうように声かけしていくうちに、週2回の入浴をされるようになった。1階のデイサービスにある炭酸泉のお風呂を利用することもある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の水かえ・掃除・調理・洗濯物干しやたたみ等、ご利用者1人ひとりの得意とすることを役割として行ってもらい、職員が感謝の言葉を伝えている。裁縫・絵を描く・百人一首・散歩・晩酌等楽しみごとの支援も行われているが、ホーム内に留まらず、地域の老人会でに行われているゲートボールやカラオケ大会等への参加が予定されている。	○	地域活動への参加を通して、地域の方々との交流促進と更なる楽しみごとの拡大につながることを期待していきたい。
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご利用者の希望でドライブや買い物に出かけたり、以前からよく行かれていた美容室や知人宅、信仰会館、散歩コースであった駅などへ出かけるなどの支援も行われている。ホームの中庭が広く、天気の良い日は車椅子の方も日光に当たって頂き、気分転換を図って貰っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上施錠している。職員が作業する場所や立つ向きを工夫したり、事前に対処策がとれるよう、ご利用者ごとの落ち着かなくなる時間帯・傾向・原因を予め把握している。玄関には鳥の泣き声がするセンサーを設置し、職員がキッチンに入っていて死角になる廊下や、玄関に続くドアのところが見えるよう、壁にミラーが設置されている。毎日何十回も玄関から出て行かれるご利用者がおられるため、そのつど対応が必要で、他のご利用者への目配りを強化したいと考えている。	○	1人で玄関から出ていかれるご利用者に職員の注意が集中し、他のご利用者への配慮も必要なことを理解されていることから、どのような対応をしたら全員の安全が確保されるのかを、検討していかれることを期待したい。
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、デイサービスと合同で防災設備会社の指導の下、ご利用者と一緒に火災や夜間の災害を想定した訓練が行われている。地域の消防署や町内会の方々に災害時の協力し合う体制について、話し合いも行っている。災害時に備えた備品等の準備はまだ行われていないが、非難時に職員1人で対応できるよう、毛布を切って作った手作りの担架が準備されている。	○	災害に備えた非常食や水の汲み置き、寒さをしのぐための物など、災害セットとして、何がどの程度必要かを検討されることを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の好みに合わせ、パンをご飯に変えたり、豆ご飯の豆を取って出したり、青魚を白身の魚に変えたりしている。おやつを選んで頂いたり、献立を立てる際、何を食べたいか要望を聞いている。食事量は記録しており、飲水量もおおむね確認できている。デイサービスの管理栄養士に献立をチェックしてもらっている。水分不足の方に、好みを観察した結果、熱いお茶を湯飲みで提供するようになり、よく飲んで頂けるようになった。食事制限のある方には、小さな茶碗を使用し、少なく見えないような工夫がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはご家族から頂いた家具や、社長の実家から持ってきて頂いた家具が置かれている。ホーム内いたるところに季節の花が飾られ、ご利用者の写真やご家族からの助言で東光寺家族だよりが掲示されている。天井が高く、広々とした印象で、照明やカーテンで明かりの調整がされ、換気も適宜行われている。運営推進会議に参加される方々からも、木をふんだんに使っており、すごく優しい感じがあり、ぬくもりがあると、ご意見を頂いている。難聴のご利用者のテレビの音量に対し、苦情が出ているため、対応策を検討中である。	○	難聴のある方、ない方、双方に快適な環境で生活できるように時間を区切って了解を頂いたり、テレビに近い場所に座っていただくなどの工夫を試みられるなどの対応を検討されることを期待したい。
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、洗面台やベットが備え付けられている。入居時に、ご利用者・ご家族と相談して、新品より思い出の品や馴染みの家具を持ち込んで頂くよう助言している。ダンス・椅子・ハンガーラック・デスク・仏壇など持参して頂いている。自宅と同じように家具を配置したり、備え付けのベットを外して布団に変えたり、趣味の絵を壁一杯に張るなどの工夫もされている。室内で転倒しやすいベットサイドに、ラビス(木目調の格子)を設置することで、転倒を予防することができた。		